

## 令和5年度 死体検案研修会 確認テスト

下記の設問のうち、内容が正しいものに○印、誤っているものに×印を文末の( )内に記入して下さい。

問1 A3用紙の向かって左側の「死亡届」は、所属医療機関の医事課が記入すべき部分である。…( × ) 御遺族が記入する部分である。

問2 死因の種類は、直接死因によって決まる。…( × ) 原死因によって決まる。

問3 死亡診断書(死体検案書)の「手術」の欄には、死亡までの手術歴を分かる限り記載すべきである。…( × ) 死因に関係したもののみ記入すればよい。

問4 死亡診断書(死体検案書)の最下欄にある医師の氏名の後に押印する必要はない。…( ○ )

問5 皮膚の変色が皮下出血を反映しているのか否かは、切開を加えて確認しない限り判断できない。…( ○ )

問6 二重条痕の成傷器の一つにムチがある。…( ○ )

問7 裂創の創縁には表皮剥脱を伴う。…( × ) 表皮剥脱を伴わない。

問8 舌骨は、体部と左右の大角から構成される。…( ○ )

問9 大規模災害時の死体検案では、通常時のそれと比較すると、身元確認に重点が置かれる。…( ○ )

問10 死後CTで脳底部に強いクモ膜下出血が見られた時、頭部を打撲した痕跡が無ければ、内因性のクモ膜下出血として死体検案書を作成してもよい。…( × ) 顔面の殴打の結果、頸部過伸展によって脳幹部前面の血管が損傷して致死的なSAHが生じることもある。